

「計画」

甲賀市立甲南第二小学校

令和8年度 我が校の学び力向上策

【**県目標**】第三期学び力向上滋賀プラン
夢と生きる力を育むために、子どもたちの主体的な活動を通して、学び力を高める。

【**令和8年度取組の重点**】 子ども一人ひとりの「ワクワク」する学びへ
○発達の段階を踏まえた言語活動の充実
○1人1台端末等の効果的な活用
○自分に合った学び方を身に付ける指導の推進

【**市町の目標**】
○IKOKA学習デザインを基盤とした、主体的・対話的な深い学びの実現を目指し、学ぶ楽しさを実感し、確かな学力を育む教育の充実
・「読み解く力」向上を図るための授業開発、実践の推進を図る。
・「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」のツールとしての効果的なICT活用の促進を図る。
・いじめを許さず、支え合い学び合う集団を育てる学級、学校づくりの充実を図る。

【**学校の目標**】
○子ども主体で高め合い深め合う授業づくりと学びをつなぐ学習習慣の確立
○認め合い、支え合う居心地のよい学級づくりと自律心を育む共通実践の徹底
○地域や人となつがる豊かな体験活動の再構築とOJTによる授業力の向上

【**現状と課題**】
○視点1 読み直す、書き直す、推敲することが苦手で、学びを深めたりより良くあろうと意識したりすることに課題がある。
(1) 教師が丁寧に見取り、子どもに支援できるが、子ども同士の学び合いや交流、自分の考えを再構築することに前向きに取り組むことが難しい。
(2) 一人一台端末を活用した基礎基本の定着の取組は実施できているが、目的意識のある自主学習や交流には至っていない。
○視点2 仲間とかかわり合うことに積極的で、互いの様子や学び方などについてよく理解しているが、関係をより良くしようとしたり、相手の考えを受け止めたりすることには課題がある。
○視点3 学校全体で子どもの実態を共有し、話し合いながらより良くしようとしているが、共通実践の取組については、職員間で温度差がある。

取組事項および評価指標

※評価指標には、目標値を記入してください。
(例) 県学びのアンケート(児童生徒)「わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、自分から取り組んでいたと思いますか」**肯定的な回答80%以上 ← 目標値**

【視点1】子どもたちが主体の授業づくり	
取組事項	評価指標
①学習を見通した単元計画のもと、子どもの興味関心を引き出す課題設定の工夫 ②1人1台端末等を活用し、視点や目的を明確にした交流場面の工夫 ③学校図書館の活用による読書習慣の定着と学習の発展・応用	①【全国学力・学習状況調査、市質問紙調査】強い肯定の割合【児童質問紙】「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。」30%以上に ②【学校評価】強い肯定の割合「児童に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用し、視点や目的を明確にした交流場면을工夫しているか。」50%以上に ③【児童アンケート】強い肯定の割合「家庭で計画を立てて学習をしているか。」30%以上に 「学校や家庭で本を読んでいるか。」50%以上に

【視点2】学びを支え合う集団づくり	
取組事項	評価指標
①「勇気づけのボイスシャワー」の実践と子どもたちが自主的、実践的に取り組む特別活動(委員会活動・縦割り色別活動・学級会)の充実 ②子どもの実態をもとにした具体的方策(やさしさ言葉・「きく」態度)の共通実践の徹底	①【全国学力・学習状況調査】強い肯定の割合【児童質問紙】「学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めているか。」50%以上に ②【児童アンケート】強い肯定の割合「自分の意見を言っているか、ほかの人の意見を聞いているか。」「友だちに優しくし、気持ちを考えて生活しているか。」50%以上に

【視点3】協働して取り組む学校づくり	
取組事項	評価指標
①地域社会の教育資源を活かしたカリキュラム・マネジメントの推進 ②授業公開で学び合うOJT研修の充実	①【学校評価】肯定的な割合【自己評価】「地域の協力を得ながら、体験活動(新田学習・農業生産活動)の計画的な実施ができたか。」「行事や体験活動のふり返りや見直しを積極的に行ったか。」90%以上に ②【学校評価】肯定的な割合【自己評価】「校内研究やOJT研修で、授業研究や事例研究等、実践的な研修を行えたか。」85%以上に

◇「学び力向上策」の実効性を高めるために、職員全体で共通理解・共通実践し、検証・改善していく時期や手立て等

- ・4月の職員会議において、学校長が学校経営方針の重点目標を伝え、5月の校内研究全体会で、「学び力向上策」について説明する。その際、昨年度実施した子どもの実態に関するアンケートや学力調査、QI調査結果などをもとにした子どもたちの強みと弱みを確認し、指導における方向性を確かめ、共通理解を図る。
- ・校内研究で提案する授業において、課題設定の工夫や目的意識のある交流のあり方、リフレクションなど、日々の授業につながる見直しや改善を図り、OJT研修と連動しながら共通実践していく。
- ・7月の学校評価や子ども・保護者アンケート、全国学力・学習状況調査やQI等の調査における数値や意見をもとに、改善策について学び力向上推進委員会でまとめ、9月の職員会議で共有し、後半の取組につなげる。また、それぞれの取組事項に対する中間評価結果を学校だより等で保護者や地域に発信する。
- ・そまご集会(5月・2月)や笑顔やさしさ集会(12月)を通して、児童会や学級集団への帰属意識を高め、子どもたちが決めためざす姿に向かって、行動したりふり返ったりする機会にする。